

コメント

建設工事受注動態統計調査の不適切処理に係る遡及改定に関する検討会議報告書は、遡及改定の基本的方針に始まり、専門的な見地からさまざまな推計方法とその評価を巡って、同会議の委員の間で多大な時間をかけて議論を重ねたうえでとりまとめたものである。その内容は、公的統計および統計理論に関する豊富な知識・経験を有する研究者の見識を反映したものであり、検討会議として十分な自信をもっている。

国土交通省で、長年にわたり不適切な処理が行われていたことは大きな問題ではあるが、今回の遡及改定を検討する際、国土交通省の担当職員は、検討会議で決定した基本的方針を受けて、元の調査票への復元に向けた地道な作業を、極めて真摯かつ細心の注意を払って、昼夜を問わず実施した。その作業量がどれほど膨大であったかは、報告書を読んでいただければ理解できるはずである。

今回の成果は、担当職員の多大な労力の成果を利用することによって得られたものであり、検討会議が求める作業に従事してくれた事務局に対しては感謝する一方、検討会議が作成した報告書の中立性が損なわれるような運営がなされたことはない。

検討会議における検討および報告書の作成は完全に独立した検討会議の責任で実施したものであり、その専門的な内容に関して、事務局が影響を与えることは全くなかったことを重ねて明言する。

令和4年5月30日

建設工事受注動態統計調査の不適切処理に係る遡及改定に関する検討会議

美添泰人・稲葉由之・川崎玉恵・西郷浩

土屋隆裕・樋田勉・舟岡史雄